

2024年 新年のご挨拶



迎春

一般社団法人
日本自動販売システム機械工業会
会長 森 益哉

2024年の新春を迎え、謹んで新年の御挨拶を申し上げます。
まずは、令和6年能登半島地震により亡くなられた方々に哀悼の意を表しますと
とともに、被災された全ての方々に心よりお見舞いを申し上げます。

2023年の我が国の経済はコロナ禍そしてデフレからの脱却に向けて、新風を巻き込む重要な局面を迎えた年でありました。昨年5月に新型コロナウイルスが2類から5類に引き下げられたところから、コロナ禍は一旦の収束を迎え、経済活動も活発化の様相を見せました。また、日本政府観光局の発表では、コロナ禍以前である2019年10月の訪日外国人客は、約249万人でしたが、2023年同月は、感染症拡大以降の約4年間でようやく同水準を上回る約252万人となりました。さらに、円安の恩恵を受け、購買力を高めた訪日客が増加することによって、インバウンド需要への期待が高まりました。加えて、国内経済活動の正常化により、非製造業を中心に更新投資や能力増強投資が持ち直したほか、デジタル化や脱炭素化社会に向けた取り組みのため積極的な投資が図られました。

世界に目を向けますと、ロシア・ウクライナ問題の長期化による原材料高騰やイスラエル・ハマス紛争等不確実性が高まるものの、雇用情勢の改善や名目賃金の増加が続いていることから、景気回復に向けた動きが今後も維持されていくものと見込まれます。

他方、自販機業界におきましては、主力分野である飲料自販機の2023年1月～12月の新台出荷は約12万台となる見込みで、ほぼ横ばいで推移しました。これは人流回復と全国的な猛暑による止渴需要が要因に挙げられます。その他、飲料自販機を活用した独自の取り組みがなされ、自販機一台一台の付加価値を見直す契機となりました。また、食品自販機分野のうち冷凍食品自販機は、マスコミ等で注目を浴びた中、着実に台数を伸ばし自販機の一カテゴリとして定着しつつあります。また、非対面取引という自販機の特徴を活かし、多種多様な中身商品が取り扱われるようになりました。

一方で、切符自販機分野の出荷台数は、鉄道事業者の乗車券券売機に対する投資意欲の減退や飲食店の閉店が相次いだことによる食券券売機の需要減が影響し、一昨年を下回る結果となりました。しかしながら、自動サービス機分野では、ビジネスホテル、クリニック等これまで対面取引を主していた市場からの需要が高まったことから、出荷台数を着実に伸ばしました。また、2024年7月3日に発行される新日本銀行券への対応に向けた更新需要を受けて、金融機器の出荷台数は一昨年を大きく上回りました。改刷対応については、関係省庁並びに関係団体との綿密な連携の下、引き続き円滑な市場対応に向け、準備を進めて参る所存です。

最後になりますが、今年の干支は「甲辰」です。「甲」は、植物が堅い種の殻を突き破り、芽を出した姿を現す文字とされます。十二支は「辰」。物事が大きく揺れ動き、ダイナミックに変貌を遂げていく姿を、天翔ける辰（龍）になぞらえたともされています。また、「辰」は十二支の中で唯一、架空の動物です。「辰」のように型にはまらないスケールの大きな未来への理想を掲げ、実現していく年となるよう一層取り組んで参ります。

今後ともご指導ご鞭撻をお願い申し上げ、皆様のご健勝とご繁栄を祈念して新年の挨拶といたします。

以 上